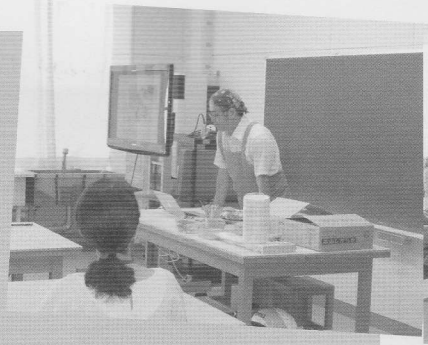
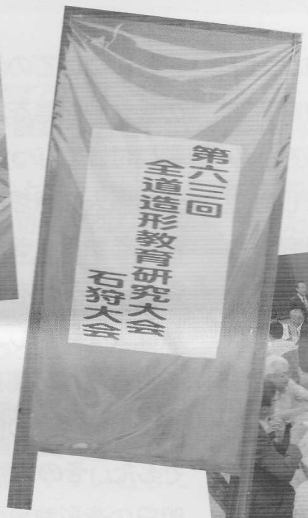
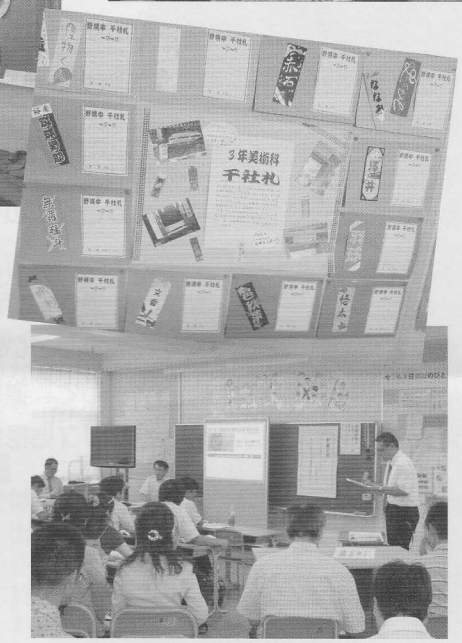






第63回全道造形教育研究大会 in 石狩特集

＜目　次＞

・大会風景 …… 1〈表紙〉
・大会実行委員長挨拶 …… 2
・大会を振り返って …… 3
・大会スナップ …… 4～5
・大会参加者の声 …… 6
・２６年上川・旭川大会のお知らせ …… 7
・地区サークル情報など …… 8

北海道造形教育連盟報

No.137　2013.12.1発行

発　行　北海道造形教育連盟

会　長　稲實　順（札幌市立旭小学校長）
事務局長　安木　尚博（札幌市立札幌小学校長）
事務局　札幌市立札幌小学校
〒007－0861
札幌市東区伏古1条2丁目1-31
TEL(011)781－5258・FAX(011)783－8022

第63回全道造形教育研究大会 石狩大会を終えて

第63回全道造形教育研究大会　石狩大会
運営委員長　**島　田　　茂**
（石狩市立緑苑台小学校長）

過日の全道造形教育研究大会石狩大会にご参加いただきまして、心よりお礼申し上げます。石狩管内教育研究会図工美術部会員33名、緑苑台小学校職員26名でこの大会を成功させようと準備・運営に当たってきました。至らない点は多々あったとは思いますが、無事研究大会を終了することができ、大変安堵しているところです。私個人としましては、過去3回この大会に携わりましたが、今回は運営責任者としての立場となったことから、これでお世話になった先輩たちへの義理を果たしたと考えています。

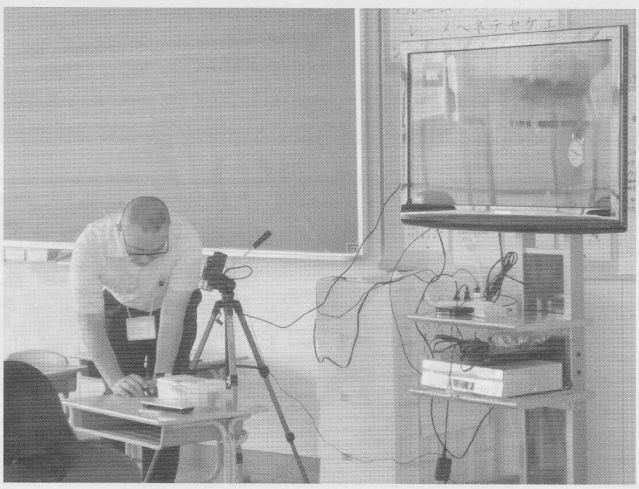
さて、本大会が道央ブロック石狩地区で開催されますのは、2008年の第58回北広島大会以来、6年ぶりとなります。この間、私たち石狩造形教育連盟では、全道造形教育連盟の研究主題「わたしを創る」を受けて、鑑賞を創作につなげる「みる心がつくる心を変える」研究、そして子どもの主体性を生み出す「こうしたいが溢れる空間」の研究に取り組んできました。作品の良しあしではなく、子どもの思いや意欲を大切にし、育みたい力を明確に意識した子どもの側に立った実践を心がけてきました。本大会ではその積み上げと成果の一端をお見せすることができたと考えています。

また、本大会では、全国・全道各地で意欲的に造形教育を進めている方々に実践発表をしていただき、さらには全国的に著名な方々を講師として、道教委や道研、教育大の方々を助言者として招き、「造形教育の本質と未来」についての示唆をいただきました。参加された皆様の感性や思考を触発し、明日からの造形教育の大いなる動機付けになったことと思います。

私個人の感想としましては、大会中において常に感じられる熱気と参加された皆様の熱意を肌に感じながらの運営は、予想を超えるやりがいのあるものでした。「情熱は人を動かし、信頼は人の和を広げる」の言葉通り、造形教育への情熱をぶつけ合い共有した2日間は、私たちの造形教育の値打ちを再確認するには十分過ぎるものでした。その情熱と子どもたち一人一人への深い思いが、明日の造形教育の「新たなる扉」を押し開く力となると信じています。

また、このような大きな研究大会を主管する度に、組織が強化・拡大されていくことが理想ですが、石狩造形教育連盟の組織がそうなっていない点が大きな課題として残りました。人のつながりが希薄になった時世に、石狩管内教育研究会図工美術部会の10名程の好事家だけの組織に未来はないでしょう。今回の研究大会が会場校の教職員の協力が無ければ成し得なかったことを考えると、抜本的な組織改革の断行が求められます。

最後になりますが、本大会の主管をするに当たり、北海道造形教育連盟をはじめ、北海道教育委員会、石狩管内教育長部会、石狩市教育委員会など関係機関の皆様の多大なるご理解とご協力に心より感謝を申し上げご挨拶といたします。



全道造形教育研究大会石狩大会をふりかえって

石狩造形教育連盟
研究部　山　崎　正　明
（千歳市立北斗中学校）

研究会の開催の意義

石狩造形教育連盟は研究の成果を提案するだけではなく、美術教育の研究団体として、**教室で課題を抱えている先生方のために何かしなければならない**、また、造形教育の持つ教育的な価値や魅力も伝えたいと考えました。

研究には「深める」側面と「広める」側面があり、現在の道内の美術教育の状況から判断し**「広める」研究を重視**しました。

授業

さて、本大会は、大会主題「豊かな心と確かな力を育む造形教育」を受けて、副主題～子どもの「こうしたい！」があふれる授業を通して～を提示して開催しました。授業については、**ごく普通の日常的な授業を通しての発表**としました。これは、**研究成果を一般化しやすい**と考えてのことです。

本大会の役割は、作品をつくらせることが目的化されるような授業がいまだに多い中、描いたり、見たりする活動を通して何を育むべきかを明確に示すことがどうしても必要でした。研究内容の「こうしたい！」で、「描かされる絵と描く絵は違う」と述べたのもこのような背景があってのことです。

アンケートや分科会での報告から各授業の評価も高く、**参加者が、子どもの側から授業をとらえ、本質的な論議をしている**ことがわかり、これからの北海道の造形教育に期待できると確信しました。いただいた「子どもへのメッセージ」は授業をした子どもたちへの大きな励みとなりました。ありがとうございます。

なお授業や研究についていただいた課題は、これからの取組に生かしていきたいと思います。なお、石狩と道の研究部で事前研を出来たことは大きな成果です。

実践発表

実践発表にあたっては、**発表時間や紀要でのページ数について十分な場と時間を保証**しました。その結果、分科会の充実につながったと思います。反面もっと他の発表も聴きたかったとの声も寄せられました。また、発表にあたっては、教師どうしが広く学び合えるようなきっかけになればと考え、東北からも3人の実践発表をいただき、好評でした。今後。東北との連携もあってもよいのではというご意見もいただきました。

講演会

講演の講師は、日常的な授業づくりを大切にされている**上野行一先生**（「美術による学び研究会」代表）と**大橋功先生**（「実践美術教育学会」代表）にお願いし、さらに実技研修までお願いしてしまいました。お二人とも各分科会に一般参加者として参加されていたことが印象に残りました。

ワークショップ

参加者が体験的に学べるワークショップや協議を合わせて8つ組み、参加者はその中から二つを選べるという方法をとりました。お蔭様で盛況でした。

内容的には、いわゆる実技研修というよりも、**参加することで子どもの学びが見えてくるような内容を目指し**ました。「対話による美術鑑賞」をはじめとした鑑賞の具体的な方法、発想構想場面での指導、子どもの絵の読み取り、iPad等を活用した授業づくりなど、さらに、中学校美術部の交流などの場（これまでの研究会にはなかったことです）も持ちました。

教員養成課程の大学の先生と連携

教員の実践力の向上などを考えると、**教員養成課程担当の大学教諭との日常的な連携**が望まれます。したがって、講演や助言者、実技研修などにも大学の先生に多数ご参加いただきました。

広報活動

最後に、本大会の広報にあたって研究案内を北海道の小学校の先生の全員の机上に、中学校は全学校に、本大会の案内を配付しました。研究案内の中には、大まかな授業づくりの構造図や子どもの絵の見方を掲載するなどして啓発的な内容を盛り込みました。たとえ、研究会に来られなくとも実際に手にとって、ご覧いただければ、という思いで作成したものです。広報活動の結果、参加者の数が増えなくとも、**北海道造形教育連盟の存在を知っていただく**ことが第一と考えました。常連のメンバーが参加するだけではなく、新規の参加者増を目標としました。

DVD「かく、つくる、みる」

図工美術の**専門ではない先生が安心して授業ができるように**表現や鑑賞の技法について、学べるようなDVDビデオをつくりました。2008年「かく、つくる、みる」の続編です。内容はすべて新しくし、Ver2ではなく、Vol2としました。

なお、今回のDVDでは、作品展示の仕方等、授業をささえる環境づくりについても集録いたしました。どこかの地域が「かく、つくる、みる」Vol3をつくっていただけるとありがたいのです。いくつか出したところでそれの集大成版をつくり、北海道として出せたら、素晴らしいだろうと思っています。

持続可能な研究

今回の大会では、案内表示や湯茶、駐車場案内、大会会場設営など、出来るだけお金と手間をかけずに簡素化しました。少しさびしく感じた方もいらっしゃるかもしれませんが、これは、今後道内各地で研究会をする場合に必要なことと考えてのことでした。もっと簡素化できることもあるかもしれません。

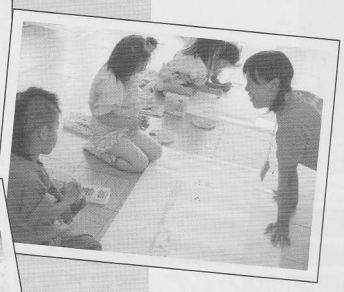
第63回全道造形教育研究大会は、お蔭様で400人もの方々にご参加いただけました。この研究会にかかわったすべてのみなさんに感謝いたします。ありがとうございました。

来年は旭川で全道大会です。石狩とコンセプトがつながっているところも多く、大変うれしく、また、心強く感じています。

「自分たちの森をつくろう」

篠路光真幼稚園　4歳児
教諭　木下　明日香

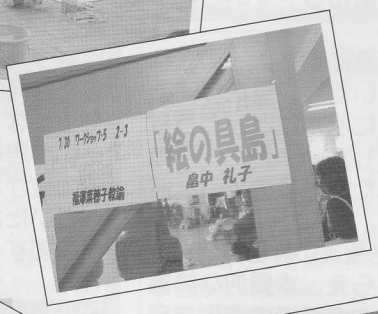
「森の中で何をしたい？」と子どもたちに問いかけることから、子どもの中の「こうしたい！」を生み出しました。

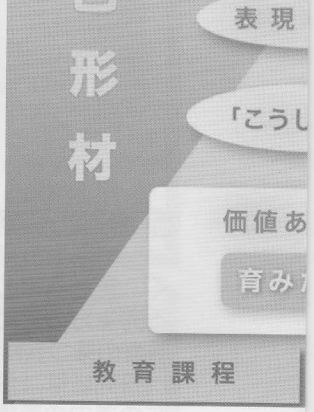


『自分の「絵具島」を描こう』

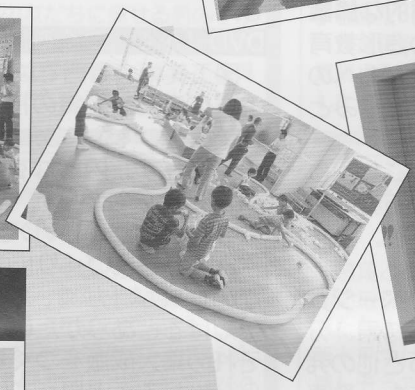
篠路光真幼稚園　5歳児
教諭　畠中　礼子

「絵具島」は絵の具でできた島で、それが噴火するという設定のお話を聞かせることから子どもたちの「こうしたい！」を生み出しました。





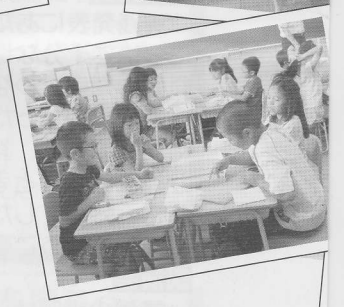
第63回 全道造形教育
大会
「豊かな心と確かな
副 主
～子どもの「こうしたい！」



「ならべて　つんで」

石狩市立緑苑台小学校　1年
教諭　小笠原　晴美

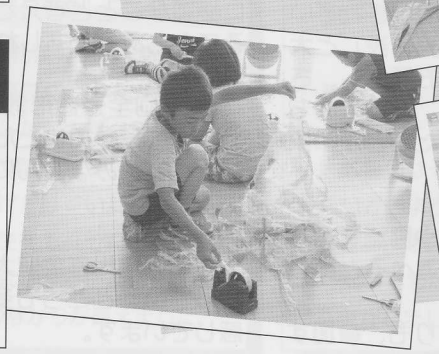
10000個の紙コップを用意し、子どもの「こうしたい！」を生み出しました。ならべる、つなげる、友だちと協力し合う…。紙コップの形を生かしながら発想が広がっていきました。



「風でダンシング」

石狩市立緑苑台小学校　3年
教諭　堀田　裕也

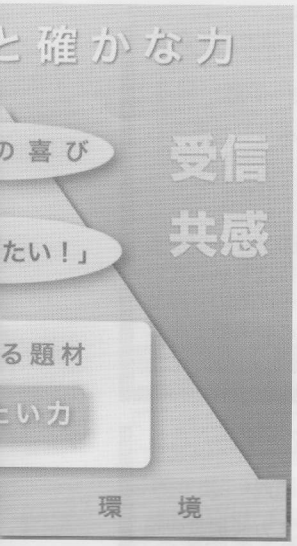
どこにでもある何気ないビニル袋。いろいろなサイズを用意し、色を塗ったり、形をかえたり…。また傘に吊るして鑑賞を…作品がかぜにゆれてダンスするように一工夫。そこから子どもの「こうしたい！」を生み出しました。

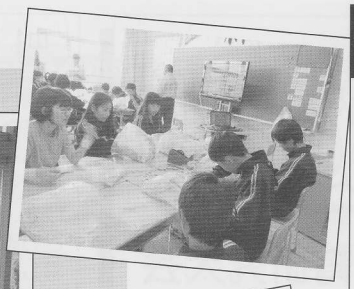


「開けてびっくり！

石狩市立花川
教諭　高

とび出す仕組みを知
発想を広げていく。
楽しむコース」「相
と2コースの中から
を明確にすることか
うしたい！」を生み

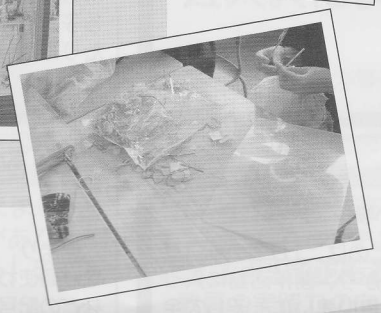




『「並べる」と、「集める」と、「合わせる」を、すてき』

当別町立当別中学校　1年
教諭　佐藤　哲

どこにでもあるクリアファイルに、包装ビニール、古封筒、輪ゴムやクリップ、お菓子のパッケージなどなどを自由にはさんで作品づくり。短時間でできる、「あっこうなった！」が「わ！こうなった…」となるよう小さな積み重ねを大切にしたかかわりから子どもの「こうしたい！」を生み出しました。



「あのときの、あの気持ち ～心をのぞいて見てみたら」

江別市立江別第一中学校　1年
教諭　渡辺　麻子

心を望遠鏡や顕微鏡でのぞいて見たような形＝○（円）の紙を準備し、心の中の感情を表現させました。単に「喜怒哀楽」だけではなく、場面ごとの気持ちを考えられるよう、一人一人にテーマをしっかりと持たせることを丁寧にかかわり、子どもの「こうしたい！」を生み出しました。

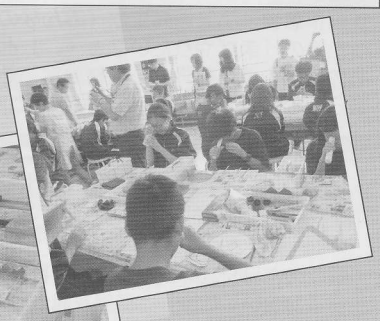
研究大会　石狩大会

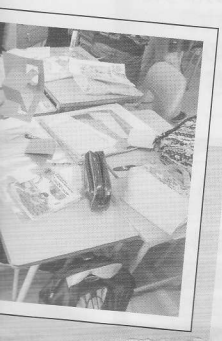
主題

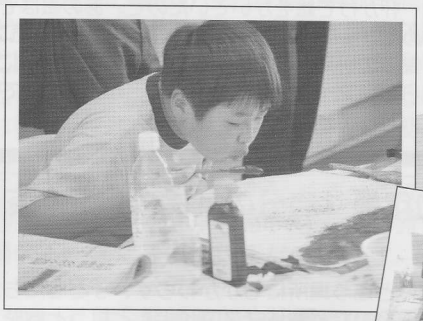
力を育む造形教育」

題

があふれる授業を通して～







「墨から感じる形や色」

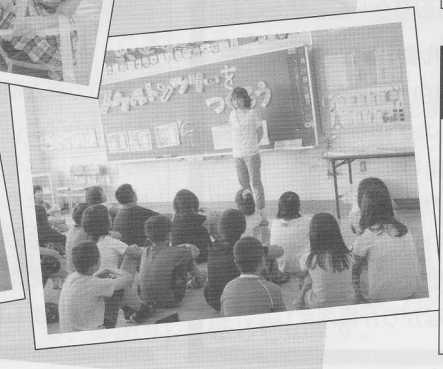
江別市立東野幌小学校　6年
教諭　金住　ゆかり

「墨で絵を描く」という一つのタブーを破るわくわく感に初めて感。自分たちでいろいろな墨の色をつくりあげることから「こうしたい！」を生み出しました。日常の班隊形を生かし、「すごいね！」と認め合える場を大切にしました。

とび出すカード」

小学校　4年
亮一

、それを楽しみ、
カードは「自分で
にあげるコース」
ばせ、「誰に？」
ら、子どもの「こ
しました。



「スケルトンツリー」

石狩市立緑苑台小学校　5年
教諭　千葉　道子

プラスチック段ボールという素材から、また、加工も簡単で、シンプルな半透明の素材であるという点から…、子どもの「こうしたい！」を生み出しました。日常での「木」とのかかわり、また「スカイツリー」というよく知られたものをうまく融合して、子どもの意欲を膨らませていきました。

大会参加者の声♪

第63回 全道造形教育研究大会 石狩大会

小1「ならべて　つんで」

石狩市立緑苑台小学校　大森　香奈江

子どもたちのワクワクがピークに達したのは、1万個の紙コップが現れた瞬間。「わぁ！」と歓声があがり、創作活動に入っていきました。積んだり、つなげたり、思い思いに、そして全員が楽しみながら笑顔で取り組んでいる姿が印象的でした。

途中、積み上げたコップがくずれても、また最初から作り出す創作意欲。小笠原先生が「みんなのを見てみようよ！」と言った時の「まだやりたいなぁ…。」というつぶやき。子どもたちの活動の場を保障する題材設定、そして日頃の学級経営の素晴らしさによって支えられた授業だと思いました。

小4「開けてびっくり！とび出すカード」

網走市立中央小学校　添田　好美

最後の作品交流の場面で「妹を喜ばせたい」、「お母さんの誕生日をお祝いしたい」と家族を思って作られたカードが紹介されていました。自分の作品で人に喜んでもらおうという、やさしい気持ちに感心しました。

友だち同士のあたたかい交流も忘れられません。「見て、観て。」と、苦労しながらできた形をグループの友だちに見せる男の子がいました。活動時間も残り少なくなり、自分のカード作りに忙しい女の子でしたが、しばし手を休め、男の子の手にする作品を見つめ、にっこりと微笑みました。ほのぼのとする光景でした。

小6「墨から感じる形や色」

名古屋市立千鳥小学校　大島　聖矢

私自身がこの授業を観させて頂いて、これから私も大切にしていきたいと強く感じたこと4つを書かせて頂きます。1つ目は、「題材を練る」ということです。"雲のある物語を描こう"という投げかけや"自分の好きな色・柄の台紙に貼る"という工夫も。子どもの活動意欲をかき立てるために大事なことだと感じました。2つ目は、「自分のイメージを表すための表現技法を充分に教える」ということです。先生から教わったものをはじめとして、子ども同士で見つけ教え合っていたものまで、本当にたくさんの技術を学ぶことができたと思います。3つ目は、"教師の細やかな把握と支援を大切にする"ということです。つまずいている子はいないか、どんな思いでその色を選んだのかなどより細かく子どもに寄り添っていきたいと感じました。4つ目は、"活動のメリハリをつける"ということです。これは図工の授業以外でも今一度見直していこうと感じました。

中1『「並べる」と、「集める」と、「合わせる」と、すてき』

附属札幌中学校　寺田　実

画像を加工して導入に用いる工夫が面白く、先生の人柄もあってか楽しい雰囲気で授業が始まりました。中学一年生の目標にある「楽しさ」をしっかりおさえていました。

授業者の佐藤先生が何度も生徒に投げかけていた互いの作品を受けとめ合うことが伝わっていて、生徒それぞれが「こうしたい！」と思える表現をのびのびと追究できていました。先生と生徒、生徒間での美術を通じた心のつながりが見えました。

中1「あのときの、あの気持ち～心をのぞいて見てみたら」

美唄市立東中学校　伊藤　記子

「色彩による感情表現」ということで、どのような提示をしていくのかと興味があり、見せていただきました。円形の紙は、子どもたちにとって新鮮であったにちがいありません。持ち上げて、クルクルと回しながら、絵の具の粘り気や筆先の状態をさわるなどして、吟味する様子に、個々が自分のイメージを追求しているのが伝わってきました。何度も色と技法を試している子どももいました。あらためて「美術」とは子どもの「行ったり来たりする気持ち」を認める教科であることが実感できました。

中1「あのときの、あの気持ち～心をのぞいて見てみたら」

音更町立下音更中学校　西中　ますみ

何より、自分自身がはっとさせられたのは「とにかく具象表現を一切使わないこと」ということです。音符や星、ハートマークなどの記号も使わずに、心情を表現する。このことで、多くの説明は無く、生徒たちの抽象表現に対しての意識や考えが深まるのを感じました。

私は、自分が抽象絵画を扱う研究室に所属していましたが、今までの抽象絵画に対して迫る授業から逃げていた部分があります。今回の研究授業を通して、あらためて生徒に抽象表現について深く取り組んでいこうという気持ちにさせていただいた気がします。

幼年中「自分たちの森をつくろう」

平和幼稚園　黒壁　幸代

先生のことばによる導入のみで年中の子どもたちが「森」という難しいテーマに（しかも、いつもとは違う環境であんなに大勢が取り囲む中!!）取り組む姿に大変驚きました。また、クラスの子どもたちがとにかく落ち着いていたのが印象的でした。集中し、時間一杯かけて絵をかいていたので、あの絵はその後どのようにまとめた（全部繋げてみんなで森探検?!）のか気になります。

授業後の研究協議ではいろいろな先生の導入に対しての考えや素晴らしいアイデアなどを聞くことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。

幼年長『自分の「絵の具島」を描こう』

札苗幼稚園　髙橋　梓

普段と違う場所にもかかわらず、子どもたちが落ち着いて活動に取り組む姿勢に「スゴイ！」と思うと同時に、先生と子どもたちとの信頼関係が感じられました。一人一人の絵の素敵な所を見つけ、誉められている先生の言葉に子どもたちはとても嬉しそうでした。活動中、絵の具の混色を楽しむ男の子からこんな言葉が聞かれていてほほえましく思いました。「先生が、いい色になったねー　だって。」「いい色になっちゃったー!!」という繰り返しの声、それと共に周りにも伝えたい！見て見て!!と満足そうな笑顔が印象的でした。

幼年長『自分の「絵の具島」を描こう』

こども學舎　芳賀　雅子

最初の導入部分を聞き逃したので残念でしたが、子どもたちはのびのびと、それぞれの思いを絵に表現していました。一人一人の思いはそれぞれで、かかる時間もそれぞれ。最初にパッと描いてしまう子、じっくり考えて最後までねばる子、面白かったです。絵の具の使い方も慣れていました。

ただ、残念だった事は、子どもたちのイメージが似ていたような気がしました。運営者の皆様、お疲れ様でした。

第 64 回全道造形教育研究大会上川・旭川大会シンボルマーク→

平成26年に，全道造形教育研究大会が旭川を会場に開催されます。上川・旭川が取り組んできた，小中の連携を軸とした授業づくり・「深める研究」と，指導者の支援と様々な組織との連携や社会に造形教育を伝えていく活動・「広げる研究」に取り組んできた成果を発表していきます。

また，「明日の図工や美術の授業をどうしよう？」という悩みに真摯に応える大会を目指します。一人でも多くの先生方に参加いただけたらと考えています。

研究テーマ　『「わたし」の喜び』あふれる造形活動

開催日　２０１４年７月２９日（火）
場　所　旭川市立永山中学校
参加費　３，５００円

受付	開会式	研究について	授業①	授業②	造形まつり in 全道造形		分科会	移動	美術館鑑賞	造形教育を語る集いⅠ	造形教育を語る集いⅡ (レセプション)
					昼食						

9:00　10:00　11:00　12:00　14:00　16:00　17:10　18:00

＊２日目には，当大会と連携している「アートキャンプ in 北海道」も開催予定！
有名な講師の方をお招きして充実のワークショップです。本大会に引き続き，参加してみてはいかがでしょう？

第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会ポイント！

予定している授業

□小学校５本　中学校５本　高校１本　幼稚園2本　特別支援１本　など多彩なニーズに応える授業
□しかも，完全に１時間ずらしにして各授業をしっかり見られるように授業第一で考えました！
□小中のつながりを意識した授業構成を提案していきます。

造形まつり in 全道造形

□今回も，すぐに役立つ，授業のヒントになる等の多数の題材屋台で免許外で困っている先生方にも応えます！
□さらに，アートキャンプ in 北海道やチーム北海道ブース，地域連携ブースなど，「広げる」ブースも展開！
特にチーム北海道ブースでは，現在7サークルからの参加が決定！（ご協力感謝いたします！）

造形教育を語る集い

□旭川美術館で美術館との連携に関してのパネルディスカッションやレセプションを予定しています。美術館で楽しいひとときを過ごしてみませんか？

すぐにアクセス！▶
第 64 回全道造形教育研究大会上川・旭川大会ｗｅｂサイト
造形 Online　**http://zoukeionline.web.fc2.com/**

造形 Online　で検索！

札幌市造形教育連盟の活動紹介

札幌市立福井野小学校　小川　　健

札幌市造形教育連盟では、北海道造形教育連盟の研究主題「わたしを創る」を目指し「好きが響き合う造形活動」を研究主題として、様々な授業実践や、研修会を行っています。今回は、「さつぞう」が行っている活動について写真と併せてたっぷり紹介したいと思います！

まずは、今年の2月に行われた【サマージャンプ】札幌市立百合が原小学校の矢野宣利先生の授業実践です。3年生の子どもたちが「つるして　つないで」の造形遊びを楽しみました。お花紙をちぎりながら、天井から吊るされた紙コップに貼り、その活動が友だちとつなげ合う活動へと広がり、さみしく感じられた白い教室が色彩にあふれたすてきな空間へと大変身しました。「先生と子ども、子ども同士のつながりがより強くなり、学級として一歩成長することができたことが一番の成果です」と矢野先生の言葉にあるように、実践を通して私たちが学べることははかり知れません。

※※※